

1 今回の審議会について

新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、委員出席での審議会が開催出来ず、在宅での審議となった。

2 審議の方法

各委員へ、5月11日までにメールまたはCDにて試聴番組の音声データを送付し、各委員は試聴後、その講評を5月20日までに返信した。

3 委員について

委員の総数 5人

在宅での審議を行った委員数 5人

(1) 委員の氏名

小笠原 伸 (委員長)

君島 理恵 (副委員長)

青木 敬信

新井 啓泰

高橋 淳

4 審議の概要

毎週金曜日の午後に編成するワイド番組「RBZ friday」について、3月27日放送回の一部と、4月17日、24日、5月1日の放送回からの抜粋を試聴した。

(番組説明)

放送開始7年目を迎えた、金曜日午後に5時間の生放送でお届けしているバラエティワイド。

音楽チャート発表などFMらしく音楽にこだわりつつ、リスナーへはお題・テーマを出して積極的に参加してもらうなど、ラジオの持つ楽しさを打ち出している。

DJは、開局時からのベテラン局アナウンサーの佐藤“bigear”望と、県内出身でホリプロ所属のタレント棚橋麻衣で、世代も大きく違うコンビながらも、息の合ったトークを毎回繰り広げている。

今回は、コロナウイルスの感染拡大が懸念され始めた3月末の放送と、緊急事態宣言を受け、棚橋が東京在住のため自宅からのリモート出演となった4月～5月の放送回を取り上げた。

【審議番組についての意見】

委員：

F1の仮想中継で組み立てるという独特のテンションだが、金曜の午後に安定して番組を制作しファンがしっかりついていけるからである。正直ある種の馬鹿馬鹿しさではあるがこれで成立するのであればそれは望ましいことでもある。これぞラジオというある意味での安定感を与えてくれる。エンターテインメントとして悪ふざけに聞こえる内容すらきちんとやれるというRadioBerryの強みと理解した。

なべて優等生的なワイド番組が多いRadioBerryの中で、週末を控えたこの手の空気のノリは悪く

ない。この雰囲気をおまない人は寄り付かないだろうが、県域局更には Radiko で全国に流れてゆくという意味で、ラジオ番組としてそれくらいの個性を出してゆく必要がある。

アイルトンとマンセルがパーソナリティの世代感ではあるとは伝わった。この時間の聴取者はどこまでネタがわかるのかどうかは怪しいとも感じたがそれもこれくらいの勢いで引っ張れる両出演者の力量ゆえのことではある。ネタ番組がラジオで多くなくなった中ではこういう馬鹿馬鹿しい場をきちんと構成して守るのも大切なこと、聞いて楽しい、面白がってまた聞きたくなるような雰囲気がきちんと出せていると思った。不要不急が後回しにされがちな風潮も感じるが、それこそが文化の基本である。

4 月以降の部分では、リモート出演説明など丁寧に行われており、番組のテンション的な違いが難しかっただろうと察せられる。その点では上手に対応したものと理解する。

パンデミックはおそらく数十年に一度の出来事であり、後世のために局として記録を作成し保存をしておく必要があると考える。こう言う非常時での組織での個々人の試行錯誤の取り組みは称賛すべきものである。技術的なところの取り組みは年月を経ると案外拡散しわからなくなってゆくため早いうちにに取り組むべきだろう。そしてそういう中でも相変わらず笑いを誘うくだらない企画に真摯に取り組んでいるのには好感が持てる。「皆さんに笑ってもらいたい」この一言で聞いている人にはすべて通じる、地域のメディアとしての矜持である。

遠隔漫才については努力は認めるが、漫才では音声の違いはどうしても気になり、限界があると感じた。ただ、これらの取り組みは、遠隔地との中継やインタビューへの活用・可能性を感じており、試行錯誤のプロセスを残すべきだろう。

社会が混乱する中での娯楽要素をどう持続させるか、そして平穏にいつものようにラジオからトークや音楽が流れてくる環境を維持してこられた放送現場の皆さんに感謝を申し上げたい。

委員：

「セコワングランプリ」の企画は、番組演出がとても面白く、単に普通にリスナーの「セコイ」エピソードを読むだけよりも盛り上がり、楽しく視聴できた。ただ一方で、レーシングカーの通過する音が少し大きく、通過音がする間は話よりも音のほうに耳が行ってしまった。また、全体的に盛り上がることで、棚橋さんの話す速さが、早く感じられてしまったことが気になった。

コロナの影響で、番組構成、方法など、様々な変更を強いられ、製作現場は大変だったと思う。県内在住者をピンチヒッターに立てるのも良いかもしれないが、色々試行錯誤しながらも、リスナーに楽しい番組を届けようという意気込みや努力が感じられて、好感が持てるし、通常モードに戻った後も、何かに活かせるのではないかと思う。

特に、ベリーズのお二人のテレワーク漫才は、「見えていない」ことを逆手に取った「紙芝居」というネタが、今後の可能性を感じた。ただ、音声、音質、声質が悪く、今後、音声環境の調整なども検討してほしいと思った。

今後、STAY HOME 要請が再来する可能性があるが、こういう特殊な場面におけるラジオの役割みたいな内容や視聴動向について、リスナーに調査するとか、検討したり、まとめておくことも良いかと思う。

委員：

3 月 27 日放送回の「セコワングランプリ 2020」は面白い企画だ。ただ聴けばどうということもない話を、息がピッタリな二人が中継席からインカムを付けている様子を想起させているのは、もう芸の域に達している。BGM が大きめなのは気になる所だが、それでもしっかり聴けるのは話し手のチカラだろうと思う。ただ、優勝のネタについては少し弱かった気がする。もっと広く募集して毎回複数応募する人などを含め、意欲的な作品がたくさん集まる工夫をしてみてもどうか。

一方、4月17日、24日、5月1日放送の棚橋さん「リモート生放送」は、通常のスタジオで行っている放送との違和感が全く無く、トークの掛け合いの間も無かった。この時期、テレビで見たリモート中継出演と比べてもずっと良いものだった。また改めて、棚橋さんの勘の良さ、佐藤さんのきめ細かいフォローは一流だと感じた。

ベリーズのリモート漫才については、リモートであることを逆手にとったものだったりすれば、これは演芸の新ジャンルであろう。ただ、リモートになると、各人の自前のハードに頼らざるをえないせいか、人によって音質の違いが気になった。リモートらしさを感じさせることは良いのだが、ある程度は、番組側からマイクロフォンレベルや通信環境を指定する必要があるかと思う。

委員：

毎週金曜に5時間もの長時間番組は、企画の数も含め製作は相当な大作業だとは思う。今回も、コロナ禍の中で、ちょっとしたことに笑いや楽しさを求める狙いは大変良かったと思うが、笑いネタの扱い方については、少し残念な印象をもった。

「セコワングランプリ」は、テーマから、「クスッ」として楽しめる企画ではあるが、ただ実際、ほとんどが「リアクションが全て」といった感じが強く、またリアクションの内容も、大笑いする、騒ぐ手法と、とても耳障りに聞こえた「セコセコ」という効果音のために、せっかくの面白い投稿の内容を、多彩な言葉で拾ってあげて、視聴者と共感する空気を作りにはなっていない、聞きづらい空気があった。F1の効果音もせかせか感を強めてしまい、逆効果な演出に感じた。せこい話はじわじわくる位が程良いと思うので、スピード感はいらない気がした。

強引に話をまとめる意図があるのかもしれないが、丁寧さを欠けば、せこいことをバカにしている空気にすらなりかねない、という怖さも感じてしまった。そこに面白さがあることが十分に理解出来るが、同時に危険性がある切り口かもしれないと感じる。「笑える」とこと、「小馬鹿にしている」の境目はかなり近く、今後、その点は意識して制作していくべきと思う。

一方で、都道府県ダジャレのコーナーは短いパートながらも、とても良かった。受け取る側が、ちょっと味わう間があることは、とてもじっくりとくる。

今回、取り上げた「せこいことグランプリ」、「都道府県ダジャレ」、「リモート漫才」は、「笑い」の扱い方がテーマだと思うが、面白いことをどう視聴者に受け取らせたいのか、更なる工夫と意識が必要だと思った。

委員：

3月27日の「セコワングランプリ」の放送回は、ガソリンを給油する時間を選ぶ男、お土産を家族に持って帰る男、砂糖をなめる老人など、それぞれの人間の考え方の面白さを感じられ、笑うことが出来た。ただ、マスク不足で紙マスク、さらにレモンを搾るなどの投稿については、私自身の感覚の摩耗なのか、再び聞き直してもなぜ面白いのかが理解できなかった。

4月24日の棚橋さんがリモート出演の放送回も、テンション高めで楽しい放送になっており、日本の都道府県をダジャレでつくろうという企画も、中には面白さが分からない投稿があったものの、番組として大真面目にやり遂げた姿勢に好感が持てた。住みます芸人のベリーズの漫才も、リモート漫才ながらも映像が頭に浮かび、楽しむことが出来た。

RBZ friday は5時間もの長尺の生放送であり、番組の制作には大変なパワーが必要かと思う。金曜午後の時間帯で堅い番組をやってリスナーには届きにくく、このようにリラックスしながら緩い話を聞き流せる番組内容のチョイスは非常に良いと思う。

(以上)

5 次回開催日程

次回、6月開催予定の審議会については、委員出席の上、6月8日（月）に通常の審査会を開催することとする。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

- （１）放送 5月31日（日）午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
- （２）書面 本社事務所に備え置き
- （３）インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし